

「保健医療科学」  
第69巻 第1号 予告

特集：Recent topics in public health in Japan 2020

- Public health center (Hokenjo) as the frontline authority of public health in Japan: Contribution of the National Institute of Public Health to its development (仮題) … TAKEMURA Sinji, OHMI Kenichi, SONE Tomofumi  
National plan of action for health promotion and primary prevention of NCDs in Japan: Health Japan 21 (2nd edition) (仮題) …………… YOKOYAMA Tetsuji  
Social capital in disaster affected areas (仮題) …………… SASAKI Yuri, AIDA Jun, MIURA Hiroko  
Workforce development for strengthening of social health protection is essential for achieving Universal Health Coverage (仮題) …………… WATAHIKI Nobuyoshi, MATSUSHIGE Takuya  
Strategic management of medical incidents for patient safety and crisis management: Applications of the principles of crisis management and recent developments in Japan (仮題) …………… SATO Hajime  
Trends in health information and communication standards in Japan (仮題) …………… KIMURA Eizen, UENO Satoshi  
The state of indoor air environments in buildings and the tasks in Japan (仮題)  
…………… HAYASHI Motoya, KOBAYASHI Kenichi, KIM Hoon, KAIHARA Noriko

編集後記

2019年の「保健医療科学」も最後の発刊となりました。今年は、平成から令和に元号が変わり、新しい風が吹き始める予感を感じさせる1年でしたでしょうか？それとも、仕事に追われて、それどころではなかった1年だったでしょうか？

先日、子供と幼児向けテレビアニメ「きかんしゃトーマス」を観ていると、SDGsを子供達に紹介する内容になっていました。幼稚園児の子供はSDGsを理解することは難しいでしょうが、こうやって広まるのかと感心してしまいました。

これまで、持続可能な開発目標をどのように進めて行くのか。などSDGsについては真面目な議論がされている印象だったが、今では子供向けテレビ番組に組み込まれていることから、SDGsが私たちの生活に浸透する日は、すぐそこまで来ているように感じます。

一方で、公衆衛生従事者が一般の人へSDGsを浸透させるためにも、自身の活動がSDGsに関連していることを意識することが最初の一步であると考えます。本特集号の巻頭言で述べられているとおり、私たちの意識を変えることで、一人ひとりの取り組む公衆衛生活動が、世界を変えていく基盤となることに期待をしています。今回のSDGs特集号を読んでいた後に、読者のみなさまの活動と照らし合わせて、SDGsとご自身の活動との関連を実感してください。

次号は、「Recent topics in public health in Japan 2020」をお届けします。是非、お楽しみに。

(生活環境研究部 稲葉洋平)